



回覧

2月ふたば



令和8年1月23日 社会福祉法人こどものいえ 双葉こども園 (57-2818) 岩崎 愛実

寒さが一段と身に染みるこの季節。白い息を吐きながらも、子どもたちは元気に走りまわっています。登園後や外遊びの後、食事の前のうがい・手洗いは習慣になり定着していますが、簡単に済ませてしまっていないですか？この機会にうがいと手洗いの方法についてもう一度見直してみましょう。風邪予防の基本をおさらいして、元気に春を迎えたいですね。

【保育目標】

- 冬の寒さに負けず、手洗い・うがいをしっかりとして元気に過ごす
- 冬の自然の変化に興味関心を持つ
- 節分にまつわる料理や食べ物の由来・役割を知り、関心を持つ

♪2がつのおた♪

- ・うれしいひなまつり
- ・しあわせなつてをたたこう
- ・(わらべうた)はないちもんめ

【2月の予定】

3日(火) 節分、行事食	13日(金) 避難訓練
5日(木) 身体測定(5, 4, 3歳児)	16日(月) 新入園児説明会
6日(金) 身体測定(2, 1, 0歳児)	20日(金) 不審者訓練
10日(火) 交通安全指導	25日(水) 誕生会
12日(木) 体操教室(5歳児)	27日(金) 布団持ち帰り

<今月の歌 わらべうた> 「はないちもんめ」

かって うれしい はないちもんめ
 まけて かなしい はないちもんめ
 となりのおばさんちょっときておくれ
 おにがいるからいかれない
 おかまかぶってちょっときておくれ
 おかまそこぬけいかれない
 あのこがほしい あのこじゃわからん
 このこがほしい このこじゃわからん
 そうだんしましょ そうしよう

※人数が増えたチームから

「勝ってうれしいはないちもんめ」と歌いだし、同じゲームを繰り返します。

全員がいなくなったチーム、あるいは、時間まで競い、最後に人数の多いチームが勝ちです。

ぜひ、ご家庭でもお子さんと触れ合い、歌ってみてください

【3月の主な予定】

- 3日(火) ひな祭り会
- 13日(金) 卒園式
- 18日(水) 誕生会

新しいお友だちを紹介します。

もも組(0歳児)

かなざわ りく
金澤 利空さん

(1月1日入園)



よろしくお願ひします!

双葉こども園、園だより「ふたば」では、毎月の行事、歌やお知らせの他に子どもたちの今、体験している活動、園内の様子を発信しています。今月は、お正月あそび、バドミントン教室、祖父母の集い(5歳児)の様子です。

ゆり組 正月飾り・正月遊び



門松・しめ縄飾り



日本の伝統行事であるお正月。新しい1年の始まりを迎えたゆり組の子ども達も、お正月の挨拶やおせち料理に込められた願い、正月遊びという体験を通してお正月という行事には、さまざまな由来があり願いが込められていることを知りました。また年末には、年神様を迎える準備として、ゆり組がお米の栽培、収穫、脱穀した藁を使い正月飾り(しめ縄・門松)を作りました。完成したしめ縄に、縁起物の飾りを自分で選びつけると「出来た!」「どこに飾ろうかな?」と達成感に満ち溢れ、作った正月飾りで園全体の恵みと繁栄を祈願する子ども達でした。

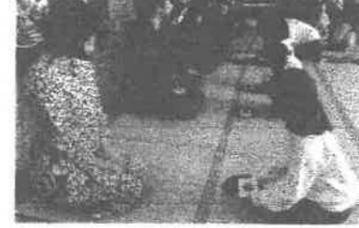
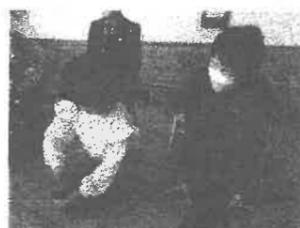


正月遊び



ゆり組 祖父母の集い

2回のお茶会からお茶の作法や礼儀を学び、祖父母の集いで大好きなおじいちゃん、おばあちゃんへの感謝の気持ちを込め、お茶でおもてなしをしました。祖父母の皆様へお菓子やお茶を運んだり、サークルタイムで伝えたい思いを話し合いメッセージを送ったり、案を出し合い決めた小物入れのプレゼントを贈りました。



~バドミントン教室~

バドミントン実業団、日本郵政グループの三國屋 太一さんを園にお招きし、3~5歳児を対象にバドミントン教室を開催しました。バドミントンに必要なステップやラケットの握り方、シャトルの打ち方やタイミングを遊びながらご指導いただきました。子どもたちは選手に憧れの気持ちを抱きながら、自分なりにラケットでシャトルを打つことを楽しむ姿が見られました。「楽しかった」「またやりたい」と達成感と意欲で笑顔が輝いていました。

ゆっくりゆっくり



たのしかったね!!
またやりたい!



こども園で体験した遊びが実は小学校の学びにつながる

こども園から小学校へ進むということは、子どもたちにとって大きな環境の変化です。しかし、その変化を不安ではなく“楽しみ”として迎えられるかどうかは、幼児期にどのような学びを積み重ねてきたかに大きく関わります。双葉こども園では、保育理念「戸外遊びを中心に自然とふれあう保育を通して、人間や社会に対する愛情と信頼感を育む教育・保育」の中、**自然とふれあい、五感を動かせる体験を軸に、子どもたちが自ら学びを深める力を育んでいます。**この学びこそが、小学校教育へと続く確かな土台になります。

遊びが学びって最高！

■ 幼児期の学びに教科書はない — 幼児期の学びは“体験”から始まる —

園庭や鍛冶町公園を駆け回り、地域の自然に触れ、風の匂いを感じ、土の感触を確かめる。こうした戸外遊びは、身体を育てるだけでなく、五感を通して世界を理解する大切な学びの時間です。

また、焚火の熱さ、煙の匂い、炊き上がるご飯の音。

夢中で虫を追いかけ、どうしたら捕まえられるのか考え、捕まえた虫を観察して新たな発見に心を奮わせる。

これらは机上では決して得られない、体で感じる経験、まさに“体験”です。自然の恵みを感じ、食べ物への感謝が芽生え、探究心や主体性が育っていきます。

幼児期の学びとは、こうした体験の積み重ねによって「自分で考え、感じ、動く力」を育てることです。

■ 小学校教育との接続 — 幼保小架け橋プログラムの視点から

小学校に入ると、生活リズムや学習の進め方が大きく変わります。

その段差をなだらかにし、子どもたちが安心して次のステージへ進めるようにするのが文部科学省のもと全国で実践している「幼保小架け橋プログラム」です。佐渡市でも教育委員会を中心に勉強会が開かれ、地域のこども園・保育園と小学校とで連携してさまざまな交流や情報交換を行っています。

双葉こども園では、二宮小学校と連携しながら次のような形で自然な接続を大切にしています。

- 自然体験を通じた主体性の育ちを、小学校の学びへつなぐ
焚火や冬の氷遊び、虫取り、たまねぎ染めなどで育った探究心は、理科的な視点や表現活動へと発展していきます。
 - 戸外遊びで培った協働性を、集団生活の基盤に
友だちと協力し、時にぶつかりながら遊びをつくる経験は、学級での協働学習につながります。
 - 地域とのつながりが、子どもの安心感と自信を支える
地域の方々と一緒に活動する際の「自分は地域に支えられている」という感覚は、新しい環境に踏み出す勇氣になります。
 - 小学校との情報共有・交流
子ども一人ひとりの育ちを丁寧に伝え、小学校の先生方と共通理解をつくることで、子どもが安心して学びを始められる環境を整えています。
今年もゆり組(5歳児)の子どもたちが二宮小学校のなかよし集会にご招待をいただき、小学生と楽しい時間を過ごしました。
また、1月26日には小学校の教育委員会の方や小学校の先生方に園にお越しいただき、普段の保育を見ていただく公開保育を実施します。
- 双葉こども園の幼児教育を通して子どもたちの日々の姿を実際に見ていただくことで、幼児期の学びへの理解を深め、より確かな形で小学校との連携へとつなげていく大切な機会と考えています。



■ 自然の中で育った“生きる力”は、次の学びを支える

幼児期に自然の中で五感を動かせ、体験を重ね、地域とつながりながら育った子どもたちは、小学校での学びを自分の力で切り拓いていきます。

「どうしてだろう」 「やってみよう」 「友だちと一緒にやってみよう」

こうした気持ちや、学びの原動力です。 やらされる のではなく 自分で やりたい! と思うことが学びにつながります。

双葉こども園で育まれた主体性・協働性・感謝の心は、小学校以降の学びを支える大切な根っこになります。

これからも、園・学校・地域・ご家庭が一つになって、子どもたちが安心して次のステージへ進める温かい架け橋をつくっていきます。